

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科				地理歴史	科目	日本史探究
教 科：	地理歴史		科 目：	日本史探究		
対象学年組：第	3 学年		1 組～	7 組		
教科担当者：	（1～7組：八木・野村）					
使用教科書：	（ 実教出版 日本史探究 ）					
教科	地理歴史		の目標：			
【知 識 及 び 技 能】	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。					
【思考力、判断力、表現力等】	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。					
【学びに向かう力、人間性等】	地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。					
科目	日本史探究		の目標：			
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】	
日本の歴史の展開に関わる諸事象について地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解し、諸資料から日本の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。			日本の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、日本の歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。		日本の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、日本の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	『日本列島最古の文化』 人類の進化の過程と、環境の変化、それにともなう日本列島と大陸との往来の状況を考える。	p. 12の図版①を活用して、人類の進化の過程を着目させる。	【知識・技能】 人類の進化する過程、さらに日本列島に人類が居住するようになった過程について理解している。 【思考・判断・表現】 旧石器時代の人々はどのような工夫をして生活を営んでいたのかについて、p. 14のTryを活用しながら協働的に考察し、適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 人類の誕生と日本列島への居住、日本の旧石器時代について、主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	○	○	○	3
	『縄文時代の社会と文化』 縄文時代におきた環境の変化や、それにともなう生活の変化を考える。	p. 15の図版②やp. 16の図版①、p. 17の図版②を活用して、縄文時代の人々の生活の様子をイメージさせる。 東アジアや北アジアの旧石器文化との差異にも着目させる。	【知識・技能】 環境の変化とともに、人々の生活がどのように変わったのかを理解している。 【思考・判断・表現】 新たな道具の登場が生活をどう変えたのか、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 旧石器文化と縄文文化を比較して、縄文文化の特徴について主体的に追究し、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	○	○	○	3
	『弥生時代の社会と文化』 水稲農業の開始によってもたらされた様々な変化について考える。	水稲農業や金属器などの時代を特徴付ける文物が東アジアから伝来していることに着目させる。 北海道と沖縄は、独自の文化圏を形成していったことを確認させる。	【知識・技能】 弥生時代の人々が水稲農業をしていく上でどのような工夫をしていたか理解している。 【思考・判断・表現】 集団の規模やあり方、使用する道具、食料の得方、集団間の関係性などの比較から、各文化の特色について多面的・多角的に考察し、また、p. 23のChallengeを活用して、原始・古代を探究する上でのテーマとなる、時代を通観する問いを適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 中学校社会科歴史的分野における学習の成果も活用しながら、弥生時代に進展した地域連合が形成された要因について、主体的に追究し、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	○	○	○	3
	『歴史資料と原始・古代の展望』 考古資料の読み取りについて考える。	古墳時代については、中学校社会科歴史的分野における学習の成果も活用しながら、考察をおこなわせる。	【知識・技能】 縄文時代の弥生時代の石鏃の変化について理解し、弥生時代の青銅器と鉄器の性格の違いについても理解している。 【思考・判断・表現】 考古資料から、社会の変化について多面的・多角的に考察し、適切な論拠に基づいた原始・古代についての仮説を提示している。 【主体的に学習に取り組む態度】 考古資料や提示された情報を主体的に比較・検討し、多面的・多角的な視点から、自分なりの仮説を提示しようとしている。	○	○	○	3
	『小国の分立と邪馬台国』 文字資料を基に、弥生時代の日本列島の様子を考える。	史料を読み取らせて、思考・判断の材料とし、史料読解にあたっては、難解な語句などを適宜補足説明して、生徒の理解させる。	【知識・技能】 『漢書』『後漢書』『魏志』に記されている、当時の日本列島に関する記述の内容を理解している。 【思考・判断・表現】 史料に基づいて、当時の日本列島の小国の様子について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 史料に記された内容を主体的に比較・検討し、当時の日本列島の様子について多面的・多角的に考察し、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	○	○	○	3
	『古墳の出現とヤマト政権の成立』 前方後円墳から読み取れることについて考え、ヤマト政権の成立についても考える。	古墳時代の時期区分について、冒頭で確認させ、p. 29の図版③などを活用して、本文の記述の論拠に着目させる。	【知識・技能】 古墳の形状・規模やその分布域を基に、ヤマト政権の成立過程について理解している。 【思考・判断・表現】 古墳の形状・規模やその分布域を基に、ヤマト政権の成立過程について理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 Tryを活用して、どのような資料から史実が明らかにされているのかを主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	○	○	○	3

2 学 期	『ヤマト政権の展開と統治の進展』 ヤマト政権と統治の進展を考える。	ヤマト政権の展開と外交との関係について着目させる。	【知識・技能】 ヤマト政権の支配体制や氏姓制度について理解している。 【思考・判断・表現】 Close Upを活用して、地方独自の文化について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 Tryを活用して、「治天下大王」の意味について、主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	○	○	○	3
	『古墳時代の生活と文化』 古墳時代の生活と文化と仏教伝来の背景と意味を考える。	古墳時代の須恵器・土師器・鉄製農耕具の形状や、仏教の伝来ルートについて着目させる	【知識・技能】 渡来人がもたらした新しい技術や知識が、ヤマト政権の統治能力や人々の生活に与えた変化について理解している。 【思考・判断・表現】 古墳の変遷や、古墳時代に渡来人が伝えた文化を多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 Tryを活用して、渡来人によってもたらされたものが、その後の社会にどのような影響を及ぼしたのか、主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	○	○	○	3
	『古代国家の形成』 7世紀における、国家体制の整備過程と、7世紀の東アジアの動向と国内の政治との関係を考える。		【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	3
	『』		【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	3
	『』		【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	3
	『』		【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	3
	『』		【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	3
定期考査				○	○		1
	『』		【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	3

3 学 期	『』		【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	3
	『』		【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	3
	『』		【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	3
	『』		【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
							合計
							70